



第348号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



生き続けること



カット：
本多 紘子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。年々と日本の冬も暖かくなっているようですが、皆様お元気で正月を迎えられたでしょうか。

アラブを中心とした石油産油国が石油の産出量を減産する取り決めに昨夏にして以来、ガソリンや灯油等の石油の値段が高騰し、庶民の暮らしを圧迫しているのは残念です。極端に寒くなれば心光寺の本堂でも石油ストーブを焚き、灯油を大量に消費します。愚僧も石油産油国に増産を願っています。石油を武器に国造りをしている産油国の政府の方も必死だから、石油は安くならないのでしよう。環境に優しい太陽熱や地熱などの石油代替エネルギーが、もっと一般に手軽に利用できるような時代が早く来ることを願うばかりです。

昨年の秋頃から、愚僧の知人や友人が亡くなったり、入院したりでとても寂しい正月となりました。日本は少子高齢化が進み、働き手の若い人が少なく、アジアの国から若い労働者を引き込み、優秀な人は日本に帰化してもらおうと政府は考えています。医療の進歩で高齢化がますます進展し、独居老人世帯が2025年には700万世帯になると見られ、老人介護問題が浮上しています。ベトナムやタイなどで若い介護士さんを養成しても、給与が低いと来てくれるか心配です。

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

『大無量寿経』に「愛するものもいつかは別れ、栄えるものもやがては滅びる。真に楽しむべきものは何一つもない」とありますが、近代社会は人々の活動の自由を出来る限り拡大し、富を無限に拡大させる経済優先の風潮を造り上げ、死を厭い蓋をしてみました。だが、人間はいつか老い、死を迎える。また、突然の大災害でいきなり死に直面する時代です。「生まれた以上、いつでも死ぬ」ということを前提にしつつ、家族や社会のあり方を考えたいものですね。

「死ぬときぐらい好きにさせてよ」「生きるのも日常、死んでいくのも日常」と独特の死生観で多くの人の共感を得た俳優の樹木希林さんが、昨年の9月15日に満75歳で亡くなった。希林さんは『あん』『わが母の記』『日々是好日』の出演した映画で、どれも老境をさりげなく演じて余韻の深い方でした。

希林さんが全身のがんを公表したのは70歳、以後折々に心境を披露する。「若いや病気にブレーキをかけたかったとは思えない」「病は悪、健康を善とするだけなら、こんなつまらない人生はない」「長くがんと付き合っていると、『いつかは死ぬ』じゃなくて、『いつでも死ぬ』という感覚なんです」という言葉は、人の胸にじんわり染みこむ。

江戸時代の禅僧、良寛さんの辞世の句に「うらを見せおもてを見せてちるもみぢ」とあるように、希林さんもあるがままに生き抜きたいと願い、また良寛さんの別の句「散る桜 残る桜も 散る桜」を好みました。だれにも等しく訪れる死に、人は一喜一憂するが、自分の人生を自分らしく使い切りたいと、希林さんは生命を全うしていきましました。「おごらず、人と比べず、おもしろがって、平気に生きればよい」と希林さんの信条。また「病が不幸だけなんでもつたいたい。がんは特に残り時間が読めるから有り難いわよ」との言葉も響く。

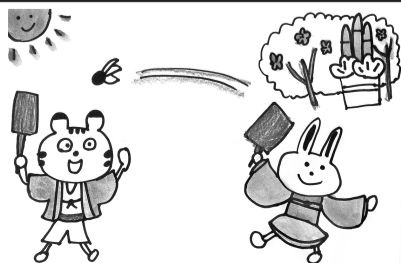
人の「生と死」は「言い尽くせない中にこそ価値がある」と希林さん。「死ぬことは 誰かの心の中で生き続けること」と病を隠さず、死から目を背けなかった希林さんに学びたい。合掌(奥原 曇龍)

『弱つても役立たずとも親切で 微笑み忘れず死ぬまで生きよう』 どんりゆう

ともしび説法

日時・一月 一日「火曜日」午後一時から午後四時頃まで。
二月 六日「水曜日」午後一時から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺](#) [倉敷](#) [検索](#)



カット：
奥原 綾



お釈迦様ものがたり 27

お釈迦様の厳しい修行は二十九歳の出家から、覚りを開く三十五歳までの六年間、ありとあらゆる苦行を試みられ、その熱心さのために、「お釈迦様は死んだ」という噂が流れたのも一再ではなかったらしい。

苦行に熱烈なゴータマ（お釈迦様）のありさまを見て、これに感心し、彼は必ず覚りを開くと期待し、ゴータマの身を保護し見守っていた五人の修行者がいました。

仏伝では、死を賭したような激しいゴータマの苦行の噂を聞いて、その危惧を憂慮した父の頻婆娑羅王が、彼を保護させるために五人の家来を派遣したという説もあります。

五人の期待にもかかわらず、ゴータマは六年間あらゆる修行経験を積んでみても、苦行によって理想の境地に到達されないことを知り、覚りに至るべき方法は別にあるであろうと、意を決して、苦行を放棄しました。

当時の実践修道の方法として、行われていた禅定も苦行も、理想到達への真の道ではないということが経験されると、ゴータマは世人の通説をたよりとせず、自己自身の思索と体験による以外に方法がないと考え、まず垢づいた身を清らかな川で洗い浄めました。仏伝によれば、彼はあまりに衰弱していたので身を洗って川から岸へ上ろうとしても、その力がなく、神々が差し出した木の枝にたかまって、やっと川を出たとあります。

そして今までの絶食をやめて、セーナー村のスジャータという若い娘の捧げた滋養に富んだ乳粥の食事を取ったので、次第に体力が回復し、黄金色の皮膚を取り戻しました。ゴータマの態度の豹変を見た五人の従者たちは、彼の心が墮落し、贅沢に陥ったものと誤解し、彼に従っていても徒勞に過ぎないと考え、彼を捨てて、多くのバラモンの修行者が集まっていたカーシー国ベナレスの鹿野園へと去っていききました。合掌（奥原曇龍）

出逢いあり別れもあるよ人の世は 無常を照らす元旦のとしび 田辺多恵子



11月3日の法要で住職方と総代さんたち

ともしび法話

『明けまして南無阿弥陀仏』
本年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。昨年は「晴れの國」岡山県で大雨が降り、大きな災害となったのは残念です。

心光寺では被災された方々と共に、年末の行事や元旦説法に取り組み、心の回復を目指しながら、歩みたいと願っています。心光寺坊守（ぼうもり） 奥原 博子

心光寺フラダンスの10周年記念と解散公演を、11月3日の報恩講法要の催し物でさせていただきます。長い間、心光寺の貴重な場所と時間を提供して下さい、多くの仲間と楽しく踊らせていただきました。深く感謝しています。倉敷市茶屋町 河野 和江

報恩講法要では、いろんな催し物を見せたい、楽しい法要の一日となりました。ハンドベル演奏・フラダンス・民舞・仏教講演、本当に有り難うございました。倉敷市藤戸町 重原則秋・東亜子

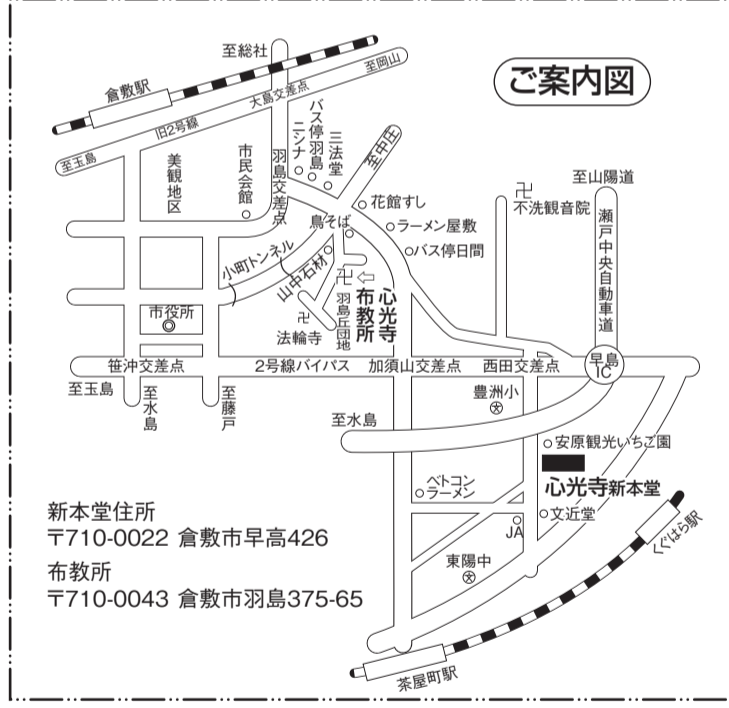
元旦や山門めぐり本堂へ
今年も参るぞともしび説法 山田孝治

ともしび説法

日時・一月 一日「火曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
二月 六日「水曜日」 午後一時から午後四時頃まで。
場所・倉敷市早高四二六 心光寺（しんこうじ）本堂にて
電話・（086）420-1311 駐車場有り

○ともしび説法・お寺の行事予定
三月 七日（木）・午後一時から午後四時・早高の本堂。
四月二十一日（日）・午前十一時から午後四時・永代経法要。
午前、ピアノ・マリリンバ演奏、午後、法要儀式・仏教講演等。

☆『ともしび』を平成21〜23年、平成24〜26年、平成27〜29年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となって、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返ることが出来ます。まとめた本が欲しい方は実費でお分け致します。



ともしびの詩

新年が今年も来たよ
悩みをいっぱい抱えつつ
逃げ出すことも出来ないで
ぬらりくらりと生きている
根無し草と呼ばれても
のどかに のんびり過ごしたい
行く雲の如く水の流れるように



カット：吉岡美枝

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人（しんらんしようにん）です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんを紹介してもらおうより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「348号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。ともしび説法が午後の日には茶屋町駅西口に12時30分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡を下さい。合掌 心光寺 総代長 三村健